

わがまちの「ちよつといい話」

NO. 59

「道徳のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

七月十六日（海の日）早朝八時、トンボ池周辺に百八十名ほどの人々が集まった。

トンボ池を守る会、下羽栗地区町内会、道徳のまち笠松の関係者を中心に、国土交通省

木曾川上流河川事務所、NPO法人『竹環境保全推進協議会竹人』、NPO法人『元気きそがわ』、下羽栗小学校PTA、地元企業、一般のボランティアなどの方々である。

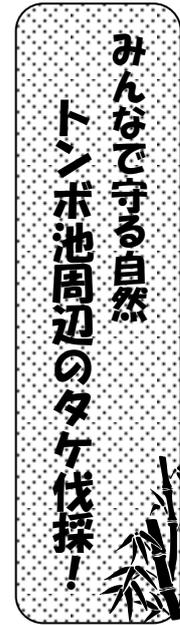
トンボ池の生息環境は年々悪化し、約二十年間でトンボは十種類ほど減少。

県下最大のビオトープ「トンボ池」の環境を保全しようと、国土交通省では、池の底にたまった泥の撤去、密生していたタケの伐採、マコモやお

ぎの移植などをされ、池の環境は改善された。しかし、伐採後のタケが再び生え始め、環境の悪化が懸念された。

このタケを伐採し、池の環境を保全しようと道徳のまち笠松推進会議から各団体組織に呼びかけた。集まった人々は草刈り機、ナタ、ノコギリ、剪定鋏などを手に、トンボ池の西と東に分かれて作業を開始した。蒸し暑く汗が噴き出す。足元も悪い。慣れないタケの伐採と集積作業だが、トンボの飛び交う池にしたいという思いでみんなが取り組んだ。

九時には作業を終え、互いの活動をたたえ合



えた。タケは伐採され、トンボの生息に好ましい森の環境に戻った。

この取り組みの中で、「人とつながる

心」や「自ら取り組む心」を育むことができた。また、各組織の相互理解を深め、協働して取り組む心を高めることもできた。参加してくれた小学生の姿もうれしい。池の水質改善と餌となる昆虫の増加でトンボの種類も回復の兆しを見せている。皆さんの温かい心と力で、「心温かくエネルギーッシュ」なまちの取り組みになったことを感謝したい。



トンボ池北側で、タケの伐採作業に取り組むボランティアの方々